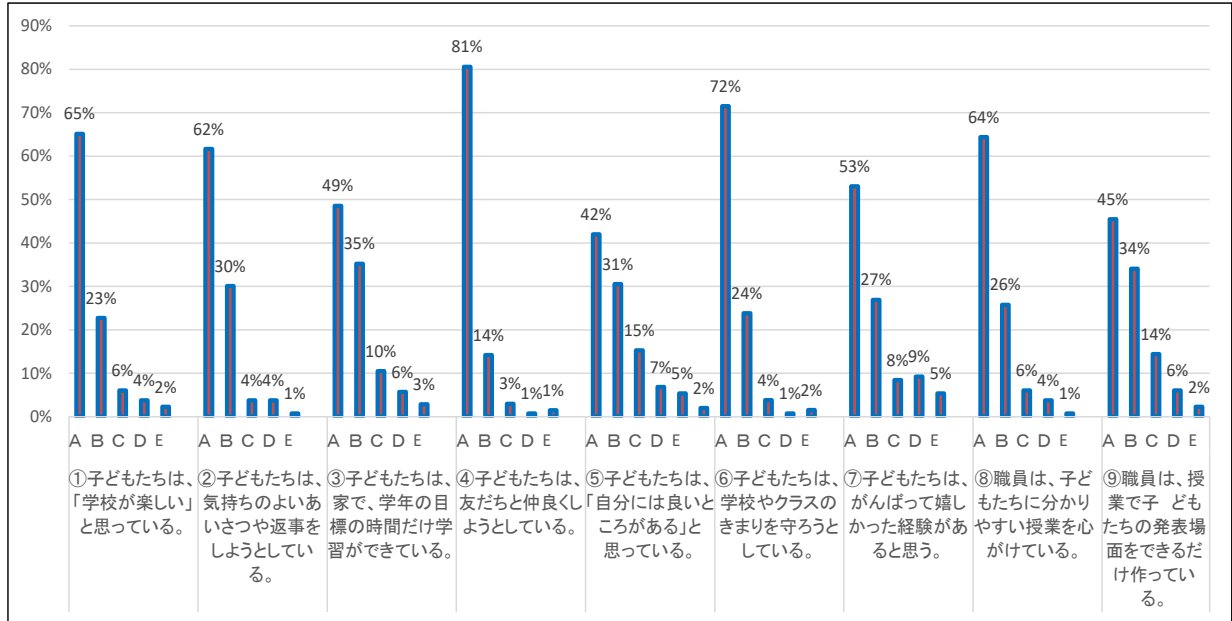


令和3年度 学校評価まとめ（中間報告）

上田市立長小学校

1学期に実施した学校評価アンケート（児童）の結果について報告いたします。

凡例として、A：そう思う B：だいたいそう思う C：どちらでもない D：余りそう思わない E：そう思わない と標記します。



【考察と今後の方向】 ◎今後の方向

- ・①より学校が楽しいと感じている児童は約90%であり、学校生活に満足している児童が多い。
- ・②④⑥⑦は、いずれもABの合計が90%を越えている。学校生活に充実して取り組んでいる姿といえる。
- ・①のDEの児童が6%いることから、②④⑥⑦のDEの児童も満たされない思いを持っているのではないかと考えられる。
- ◎児童主体の学習活動の充実にも今後も努めていくと共に、今まで大切に取り組んできた体験学習や地域の方との交流についても、できることを模索しながら行っていきます。
- ◎児童の日記や生活記録から児童の思いに気持ちを寄せ、仲よしアンケート・相談日を児童と向き合う大切な機会と受け止めながら、一人一人の児童に寄り添う学校体制を整えていきます。
- ・⑧のわかりやすい授業については、児童の評価がA、B合計で90%と高く、ICTの活用や授業の指導の工夫が、児童のわかりやすさにつながっていると考えられる。
- ・⑨の授業での発言、発表については、頑張っている子がA、Bで80%いるが、約20%の児童は、自分の考えを伝えることに抵抗感を持っていることがわかる。
- ◎児童が主体となって学びを深める授業のあり方について研究を進めると共に、ICTの有効な活用方法についてもICT支援員と一緒に職員研修を行っていきます。
- ◎グランドデザインの重点目標に示されている「相手に伝える力の育成」を目指し、授業の中だけでなく、児童の発表体験を仕組む場の工夫と設定をしていきます。（全校集会・児童会等）
- ・児童と職員の意識の差が大きいものに②のあいさつと⑥きまりを守るが挙げられる。

- ・②のあいさつ・返事については、児童はA,Bを合わせると92%で良くできていると感じている。この点について、児童と職員の意識の差が大きく、児童は、あいさつを自分ではしていると考えているのに対して、職員は、はっきりと相手に伝わるように言えると考えているためではないかと思われる。
- ◎気持ちの良いあいさつの仕方について児童に伝え、具体的な形での指導をしていきます。
- ・⑥のきまりを守るについて、児童はA.Bで96%がきまりを守っているという意識を持っている。廊下を走る姿の多さを見ても、実態を反映しているとは言い難い。
- ◎決まりを守ることの大切さを、各教科、学習や日常生活の中で考える場を設定し、児童に自分たちの姿を振り返ることができるような指導の工夫をしていきます。
- ・⑤「自分には良いところがある」については、D・Eの児童が12%いた。Cを含めると27%の児童が自分の良さに気づかなかったり、自信を持てなかつたりする姿が見られる。
- ◎学校行事や各学習や活動において、一人一人が達成感や満足感を味わい自信が持てるように、児童一人一人に目標を持たせ、自分で自分の頑張りを評価する場、自分や友だちの良さを認め合い伝え合う場を仕組んでいきます。

今後とも、よりよい学校づくりを目指していきます。どうかよろしくお願いします。